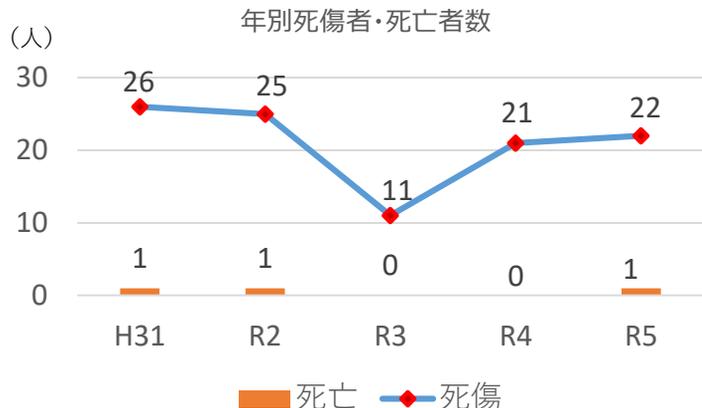


STOP!熱中症 クールワークキャンペーン

～7月は重点取組期間です！～

広島県内の職場で発生している熱中症は以下のような傾向があります。

資料出典 労働者死傷病報告（平成31年～令和5年）



1 発生状況の推移

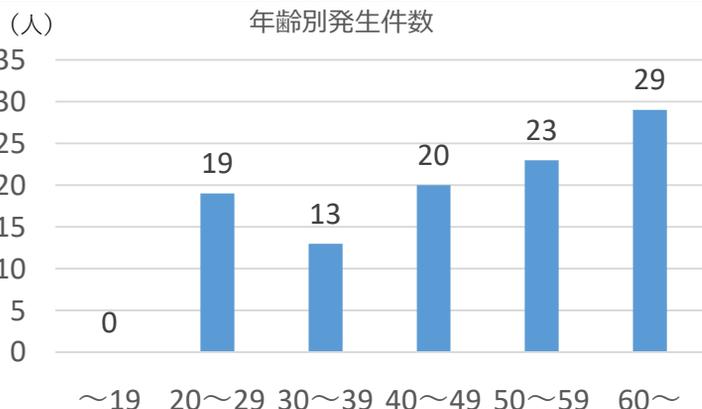
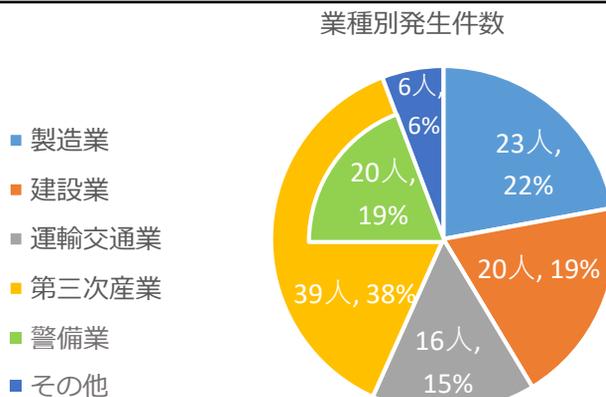
ほぼ毎年20件以上の熱中症による労働災害が発生し、死亡災害も5年間に3件発生しています。

体調不良を抱えたまま作業を行う等、裏面の対策を講じていれば防げた災害も多く含まれます。

2 業種別の特徴 (平成31年～令和5年)

高温多湿の環境下で熱中症は発生します。屋外での発生が多いものの、工場内等屋内でも発生しています。

このようなことから、どの業種でも発生のリスクがあります。

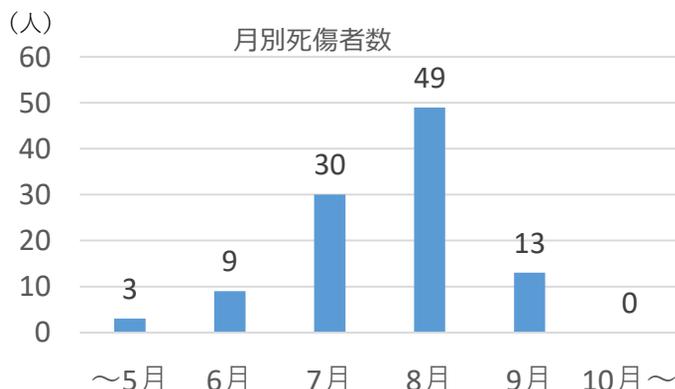


3 発症年齢の特徴 (平成31年～令和5年)

人には体温を含め身体の状態を一定に保つ働きが備わっていますが、高齢になるとその機能が低下します。高齢層の被災者が最も多いはそのことが反映されているものと思われます。高齢労働者の熱中症防止には特に留意しましょう。

4 発症月の特徴 (平成31年～令和5年)

全体の熱中症の約8割が7, 8月に発生しています。特に7月は例年梅雨明けを迎え急激に気温が上がるため、暑熱順化していない人をはじめとして熱中症にかかるリスクが高まります。



重点取組期間チェック項目

- 作業環境管理**
暑さ指数（WBGT）の低減効果を再確認し、必要に応じ追加対策を行ってください。
- 作業管理**
 - 急激な暑さ指数（WBGT）の上昇があった場合は、労働者の暑熱順化ができていないことから、プログラムに沿って暑熱順化を行うとともに、暑さ指数（WBGT）に応じた作業の中断等を徹底してください。
 - 水分及び塩分の積極的な摂取や熱中症予防管理者等によるその確認を徹底してください。
- 健康管理**
当日の朝食の未摂取、睡眠不足、体調不良、前日の多量の飲酒、暑熱順化の不足等について、作業開始前に確認するとともに、巡視の頻度を増やしてください。
- 労働衛生教育**
期間中は熱中症のリスクが高まっていることを含め、重点的な教育を行ってください。
- 異常時の措置**
 - 本人や周りが少しでも異変を感じた際には、必ず、一旦、作業を離れ、病院に搬送するなどの措置をとるとともに、症状に応じて救急隊を要請してください。なお、本人に自覚症状がない、又は大丈夫との本人からの申出があったとしても周囲の判断で病院への搬送や救急隊の要請を行ってください。
 - 病院に搬送するまでの間や救急隊が到着するまでの間には、必要に応じて水分・塩分の摂取を行ったり、衣服を脱がせ水をかけて全身を急速冷却すること等により効果的な体温の低減措置に努めてください。その際には、一人きりにせず誰かが様子を観察してください。
 - 体調不良の者を休憩させる場合は、状態の把握が容易に行えるように配慮し、状態が悪化した場合の連絡・対応方法を確認しておいてください。異常を認めたときは、躊躇することなく救急隊を要請してください。

学ぼう!備えよう!職場の仲間を守ろう! 職場における熱中症予防情報



中小企業の事業主、安全・衛生管理担当者、現場作業員向け 働く人の今すぐ使える熱中症ガイド



 梅雨が明けると本格的な暑さが到来します。今から暑さに備えましょう。

